

一般県道豆田稲築線(九郎丸工区)
【桂川町】

1.事業概要

1)路線の概要

一般県道豆田稲築線は、桂川町豆田の国道200号を起点とし、嘉麻市岩崎の国道211号を終点とする、桂川町の東西方向を連絡する幹線道路で、JR桂川駅や桂川町役場といった主要な施設へのアクセス道路としても利用されている。

豆田稲築線バイパスは全延長L=2.96kmの内、平成14年度から開発就労事業としてL=1.0kmを事業着手し、平成19年度に供用している。また、隣接する土師工区は、平成26年度から道路改良事業としてL=0.7kmを着手し、令和元年度に供用予定である。本事業区間は、唯一残された未事業化区間である。

2)事業の必要性

①本路線は、桂川町唯一のJR駅である桂川駅へのアクセス道路であるとともに、福岡県立嘉穂総合高等学校の生徒が通学のため利用している。しかし、幅員狭小区間がある上に、歩道や自転車走行空間が整備されておらず、車両との接触事故が発生している。歩行者や自転車の安全・安心を確保するため、歩道や自転車走行空間を早急に確保する必要がある。〔過去4年の死傷事故21件（うち歩行者・自転車と自動車の事故5件）〕

②本路線は、筑豊地域の交通拠点となるJR桂川駅と、役場・図書館・福祉センターといった町内の主要な公共施設が立地する町中心部とを結ぶ道路であるとともに、役場や消防署といった災害拠点となる施設にアクセスする道路であるが、幅員狭小区間や線形不良箇所があるため、その機能が十分に発揮できていない。

③福岡県、飯塚市・嘉麻市・桂川町では、嘉飯地域の自然、歴史、文化、産業など豊富な地域資源を活用し、地域活性化を目的とした「嘉飯にぎわい交流都市圏構想」を策定し、その実現のため、桂川町は町の総合計画に駅周辺整備や駅へのアクセス道路を位置づけて整備している。県としても、この総合計画に位置づけられた本路線の整備を行い、支援する必要がある。

3)事業により期待される効果

一般県道豆田稲築線(九郎丸工区)の整備を行うことにより、以下の効果が期待されている。

①(生活道路の安心・安全の確保)

歩道等の整備により歩車分離が図られ、通学児童をはじめとする歩行者や自転車利用者が安全で快適に利用できる空間が確保される。

②(主要公共施設アクセスの確保・災害時の防災機能強化)

バイパスにより、交通拠点と町中心部や災害拠点となる施設への安全で円滑な走行空間が確保されることで防災機能が強化される。

③(地域活性化の支援)

桂川町・嘉麻市・飯塚市へのアクセス機能が向上し、ネットワークが強化されることで、「嘉飯にぎわい交流都市圏構想」の実現を支援することができる。〔桂川駅～嘉麻市嘉穂地域までの所要時間：約14分→約11分〕

2.現道の状況

最小幅員：W=5.5(7.0)m

現況交通量(車線数)：5,848台/日(2車線)(昼間12時間大型車混入率11.9%)【H27センサス】

死傷事故率：463件/億台キロ(県平均：93件/億台キロ)

3.計画内容

事業箇所：福岡県桂川町大字九郎丸～桂川町大字土居

延長・幅員・設計速度：L=1.260m W=6.0(14.0)m (第3種3級)V=50km/h

全体事業費：C=1,500百万円

事業着手年度：令和2年度

事業完成予定年度：令和9年度

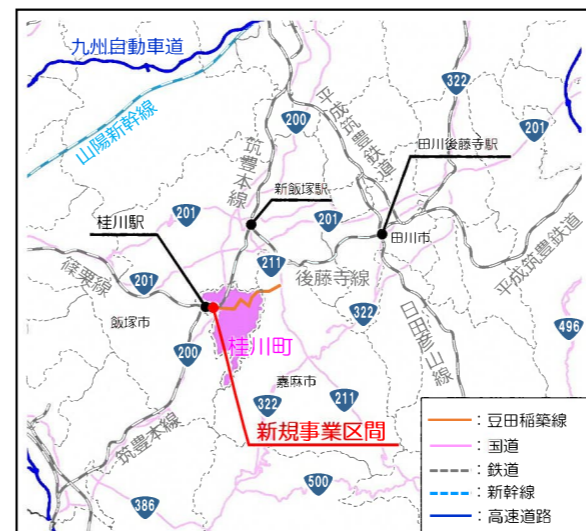
計画交通量(車線数)：3,200台/日(2車線)(R12推計)

費用便益比(B/C)：1.16

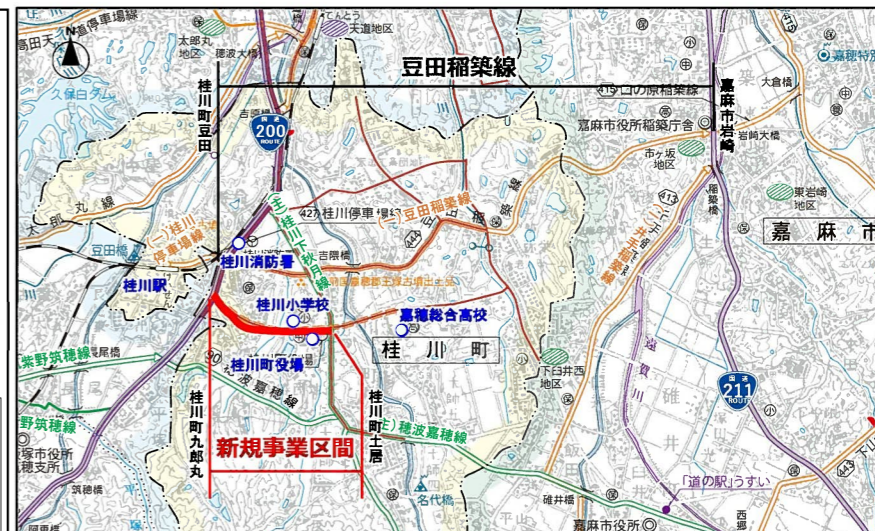
4.その他特記事項

陳述書・要望書：令和元年5月9日 要望書 桂川町から要望

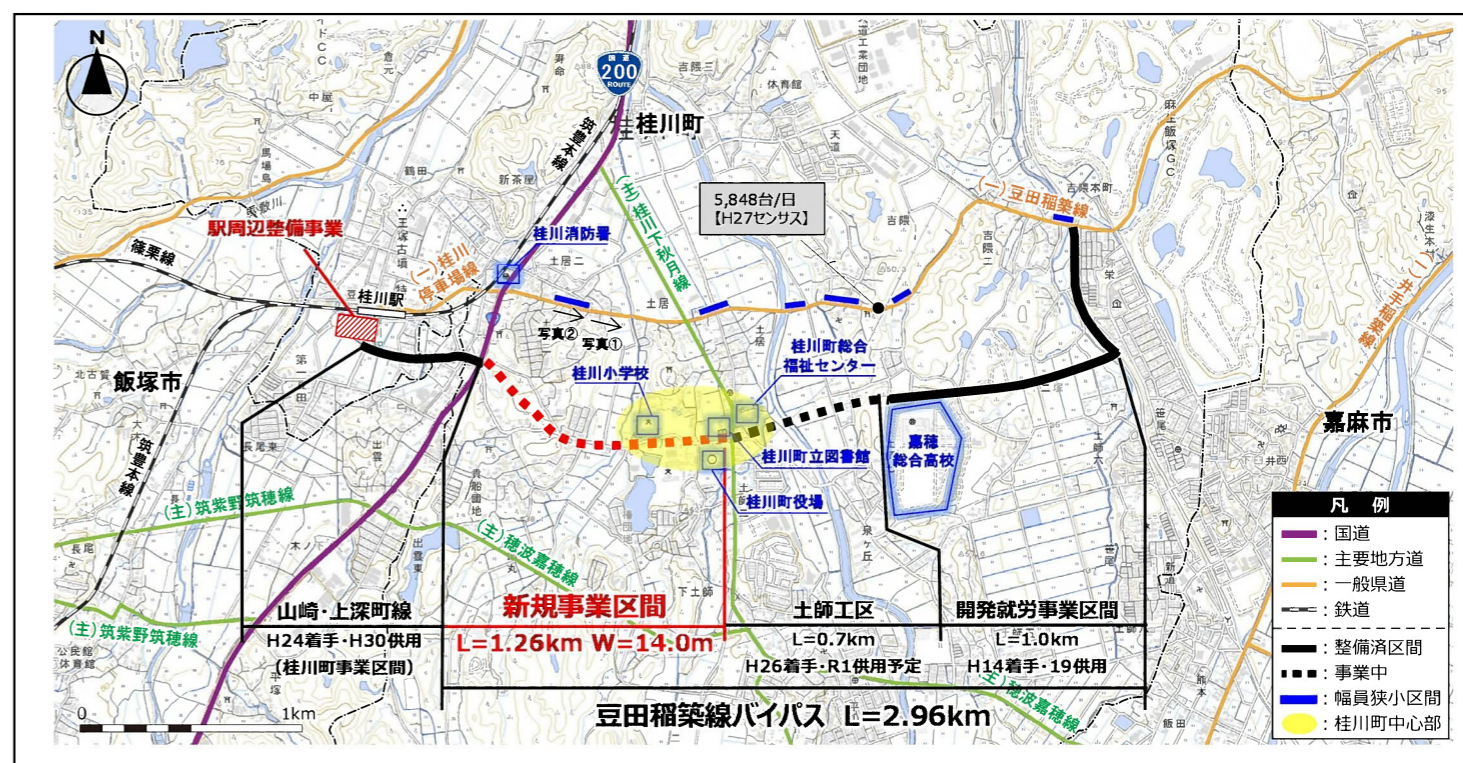
【位置図】



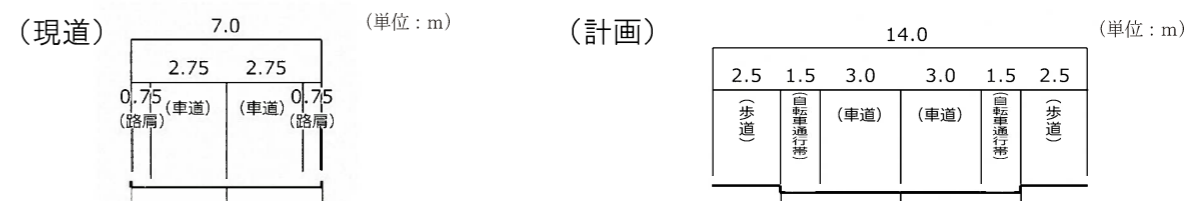
【路線図】



【平面図】



【横断図】



【現況写真】



写真①：自転車通学の状況



写真②：通学児童の状況